

漢字を置く

中西祐介

漢字が書けないとかもうそういうレベルではなく
文字さえ書けなくなりつつある

静寂がここちよい

外でちいさく秋の虫が鳴いて
聴こうとしないと聴こえない

いつか懐かしくなる静寂

はやく懐かしくなってほしい
先を急ぐので

頭のスイッチを入れすぎた日は
家では何もできなくなる

乾いた涼しさがもの悲しさを連れてきて
毎年だいたい涙が落ちそうになる

偽物キンモクセイの香りでも
ぐっすり眠ることができる

※

本当の 死体 は 画面には 映らず

モザイクの向こうにある

もっとおかまいなしでいい

目にしたってどうせ本物かどうかわかりやしない

死体は遠くにある

匂いが無い 血と肉と骨があって

現実感がない

知らない 死体の人生を想像できない

想像したい人生を死体に当てはめて安易に納得したくない

あやふやな概念も言葉にして

読み返すとかではなく

モヤモヤを一度柵に置いておく

間違えた漢字を添えて